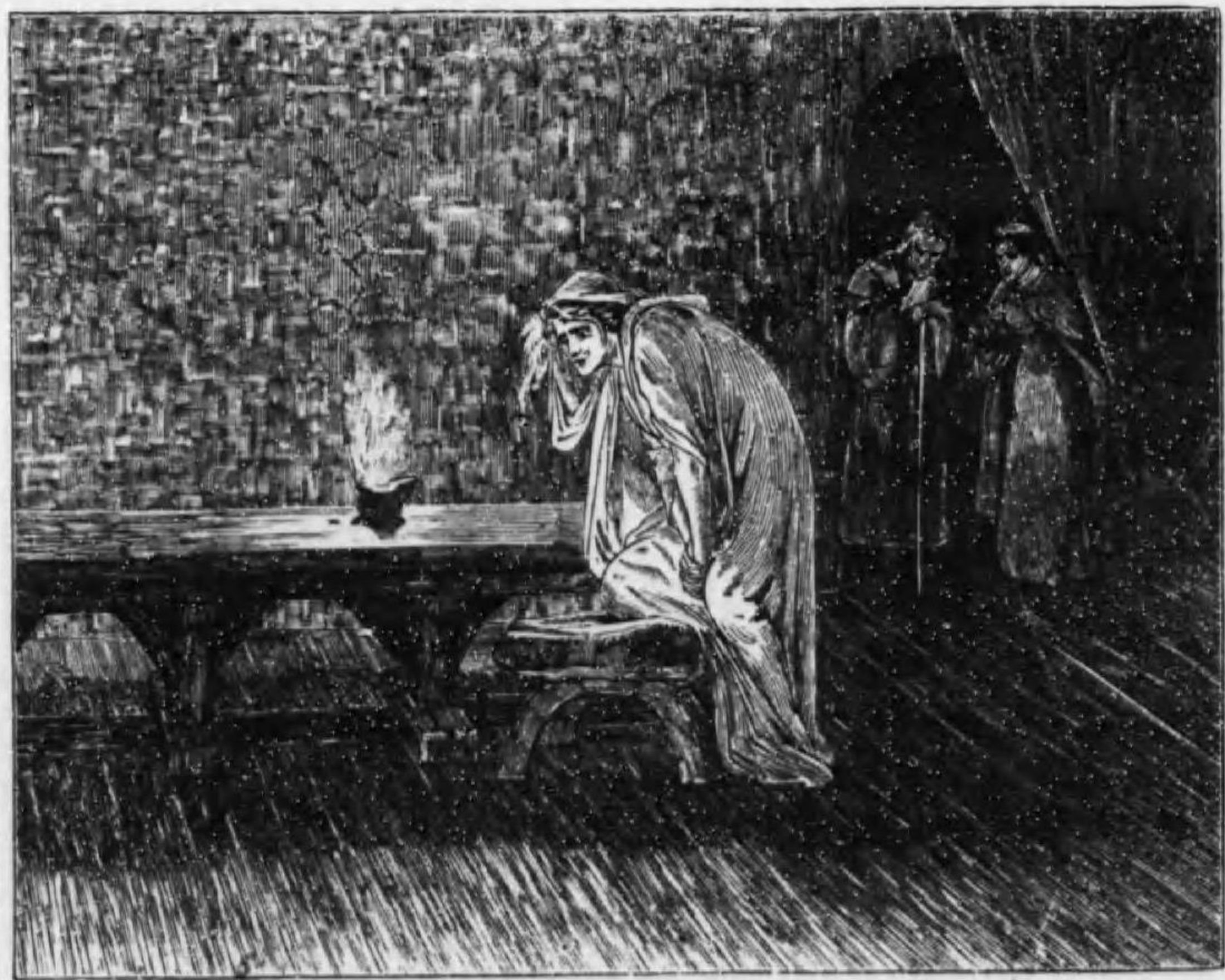


夫人

(獨語) え、厭な汚點！ 消えッ
 ちまへと言へば！……一つ。
 二つ。 おや、ちや最早時刻なん
 だ……地獄は暗い凄じ處！……
 ……まア何ですなえ貴郎は！
 ……武人でありながら、こんな
 ことが怖くつて？ 氣取られ
 るのを恐れる必要はないぢや
 ありませんか？ 主権者を裁
 判することが出来る筈ありま
 せんのですもの。……けれども
 誰だつて、老人に如是に澤山血



醫師

があらうとは、思ひがけてやしない。
 あれをお聞きですか？

夫人

(獨語) ファイアの領主には奥さんがあつたんだ、何處へ去ッちまつたんだら
 う？……え、いつまで経つたつても、清淨にはならないのか知らん此手は！
 ……もし、最早お止しなさいまし、もうそんなことはお止しなさいまし。
 そんなに戦々なされると、何もかもめぢやくになつてしまひます。

醫師

おやく、とんでもないことを御存知なすつていすな。

侍女

とにかく、とんでもないことをおつしやつてしまひましたわねえ、如何い
 ふことを御承知なんだか知りませんけれど。

夫人

(獨語) こゝにまだ血の臭ひがする。アラビヤ國中の香料を使つたつて、此
 小さい手の厭な臭ひは消されさうにない。おう、おう、おう！
 何といふ溜息だらう！ お心に一ぱいの苦みがあるのだ。

醫師

侍女 よしんば五體が女王さまになられたからつて、胸であんな思ひをするのは厭でございますねえ。

醫師 よろしい、よろしい。

侍女

どうぞ、およろしくおなり遊ばしますやうにねえ。

醫師

此御病氣は、迎もわたしの力には及ばない。睡眠中に歩いたもので、尋常に床で果た者もありません。

夫人

(獨語)手をお洗ひなさい、夜の服をお召しなさい。そんな蒼い顔をなさらないでさ。……パンコーは墓の中に埋られてゐますてばね、出て來る筈はありません。

醫師

さういふ譯か？

夫人

(獨語)さア〜、お休みなさい！ だれだか門を叩いてゐます。さ、さ、さ、さ、さ、手をお貸しなさい。爲てしまつた事は、爲てしまつたことです。……

……さア〜、お寢み、お寢み！

マクベス 夫人入る。

醫師

これでお寢みなさるでせうか？

侍女

はい、直に。

醫師

よくない噂が、こそ〜言ひ觸されてゐる。(常規を逸した悪行は、兎角常規を逸した惱亂を醸し易い。毒に傳染れた心は、其秘密の苦みを耳のない枕に打明ける。お妃には醫師よりも聖僧さんの方が必要です。……神よ、願はくは吾々共の罪をお赦し下さい。……(侍女に)お妃によく御注意なさい。お身の害になるやうなものは、何一つお傍に置かないやうにして、絶えず御監督なさい。……さよなら。目も心も、驚いた餘りに、混亂してしまつた。思つてゐることはあるが、うつかり口には出されない。さやうなら、お休みなさいまし。

侍女

二人とも入る。

第二場 ダンシネーン附近の地方

太鼓と軍旗とを持ちたる者出る。其後よりメンテイス、ケイスネス、アングス、レノックス及び兵士ら出て来る。

メンテ マルコムどのや叔父君シワードどのやマクダフどの、引率せられた英國軍が程なく著しします。復讐の念があの人々の心中に燃え立つてゐます。それも其筈です、そもく此度の事件は、例の、死んだ人間にも生々と血を流させて、物凄しい聲を發せしめるに足る事件なんですから。

アング バーナムの森の近邊で彼の人達に逢ふことになりませう、あそこへやつて

来る筈ですから。

ケイス ドナルベインどのは兄君と御一しよでせうか、どうでせう?

レノク たしかに、御一しよぢやありません、自分は上流子弟全部の名簿を持つてゐますが。其中にはシワードの子息も入つてゐれば、其他、今やつと丁年になつたばかりの髭の無い若者連が多勢入つてゐます。

メンテ ところで、暴君は如何してゐます?

ケイス ダンシネーン城を嚴重に防備してゐます。氣が狂つたといふ者もありませんが、甚だしく彼れを憎んでゐない者は、勇敢な憤激なぞと評してゐます。とにかく常規を以て其亂離の黨勢を律して行くことが出来なくなつて來てゐることは確かです。

アング 今になつて殺逆や暗殺を行つた業因をつくつく身に思ひ當つてゐるでせう。刻々に起る背叛は、毎に彼れが大逆を罵り、彼れの配下の者も、只命せ

られて、據なく動くので、決して彼れを愛してはゐない。今となつては、自分ながら、王の稱號の脱落けさうなのを感じてゐるでせう。侏儒か巨人の衣服を被た時のやうに。

メンテ
して見ると、奴の惱亂した感覺が、尻込をしたり、戦慄いたりするのも、無理のない話です、己れ自身の内部の力さへも、自ら呪ひ罵つてゐるやうぢやア。

ケイス
では、進軍して、正當に奉仕すべき處に、服従の義務を盡すことにしませう。早速良い醫者を迎へて、我國の病毒に下劑をかける手傳ひに、お互ひに血の有つたけを注射しよう。

レノク
もしくは、やんごとない花を霑はせ、惡草の根を腐らす程度に血を流さう。……バーナムの方へ進軍しませう。

兵をひきぬつゝ入る。

第三場 ダンシネーン 城内の一室

マクベス、醫師及び侍者等出て来る。

マクベ
もう注進して来るには及ばん。逃げる奴は悉皆逃げる。バーナムの森がダンシネーンへ動いて來んうちは、びくともせんぞ。あのマルコムの小僧が何だ？ 女の生落した人間ぢやないか？ 人間の運命一切に精通してゐる精靈共が、斯う予に告げた「恐れるな、マクベス。女が生落した者の方では、汝を如何することも出來んから」と。だから、逃げる、二心の貴族めら、さうして英國の柔弱共と一しよになれ。國を御する此精神、此勇氣は、疑惑で衰へたり、恐怖で動揺いたりはせんぞよ。……

一 従者恐怖したる體にて出て来る。

悪魔に取附かれて眞黒にでもなれ、うぬ、乳液面の碌でなしめ！ 何處でそんな鷺鳥面を拾つて来た？

從者 一萬あまりの……

マクベ 鷺鳥でも来たのか？ 馬鹿！

從者 いゝえ、兵士が来たのでございませす。

マクベ え、其面を引擦つて、其臆病面を赤くして來い、意氣地なしめ。どんな兵士だ？ 馬鹿！ 畜生！ 汝の其白布面は臆病者の相談相手だ……どんな兵士だ？ 白水面め！

從者 あの、英國勢でございませす。

マクベ 其面ア引込ませろ……

從者 從者あわてゝ入る。

マクベ (奥に向ひて) シートン！……あゝ胸が苦しい、此一押で以て……シートン！

……予が椅子から落されるか、永久に腰掛けてをられるか、決るのだと思ふと……予も最早末路だ。予の生の春は、最早黄葉となつて凋落する秋に入つた。しかも老年に伴ふ筈の名譽も、愛敬も、柔順も、信友の群も、予には到底得られる望はなくつて、其代りに、聲は低いが根深い呪咀や口先だけの尊敬や追従が附廻つてゐる。それを、慘な心が排斥したいと思ひながら、然うも爲得ない……シートン！

シートン 出で來る。

シート 何か御用でございませすかり？

マクベ 何かまた知らせが來たかり？

シート 前々の注進は、すべて事實だといふことが分りました。

マクベ 此肉が骨から削り取られてしまふまでは戦ふぞ。甲冑をよこせ。

シート まだお召になるには及びません。

マクベ いゝや、被る。……もつと騎兵を出せ、國內を巡察させろ。臆病風を吹かす奴は絞罪にしろ。甲冑をよこせ。……(醫師に向ひて)侍醫、病人は如何な様子だ?

醫師 御病氣よりも、神経作用で御覽遊ばされまする幻影の爲にお惱みで、お休み遊ばしません。

マクベ それを治してやつてくれ。汝は、病んでゐる心を介抱して、其記憶から根深い愁を抜去り、脳髓に記録してある苦痛を擦消し、何か快い忘れ薬で以て、心が、一ぱいに壓へ附けられて、今にも破裂しさうになつてゐるのを、晴と透いてしまふやうにしてやることは出来んか?

醫師 さういふことは、御病人御自身の御工夫に待つより外はございません。薬なんか犬にくれツちまへ。予にや入用はない。……(シートンに)さア、甲冑を被せろ。司令杖をよこせ。シートン、派遣しろ。……侍醫、領主共が陸續

脱走するわい。……さ、早く。……侍醫、若し汝の力で、此國の小水を検査して、其病源を究めて、故の通りの健康状態にしてくれることが出来るものなら、予は汝を大喝采してくれるがなア、其反響が又汝を喝采する程に。……(シートンに)え、それを除るんだ。……大黃でも旃那でも、どんな下劑を掛けても、あの英國共を追拂ツちまふことは出来んのか? 奴等の事を聞いたか?

醫師 うけたまはりました。御準備遊ばしますので承はりました。

マクベ (シートンに)それは後から持つて来い。バーナムの森がダンシネオンへやつて来るまでは、死も破滅も怖くはないぞ。

醫師 (傍白) 予は此ダンシネオンから脱出したい、さうすりや最早、どんな利得があらうと、二度とこゝへ来るこつちやない。
みな入る。

第四場 バーナムの森の附近

太鼓と軍旗。マルコム、老シワード及び其息シワード、マクダッフ、メン
テイス、ケイスネス、アンガス、レノックス、ロックス及び兵士ら進軍しつゝ
出て来る。

マルコ 諸君、もう程なく、何室に寝ても安心だといふやうになりませうな。

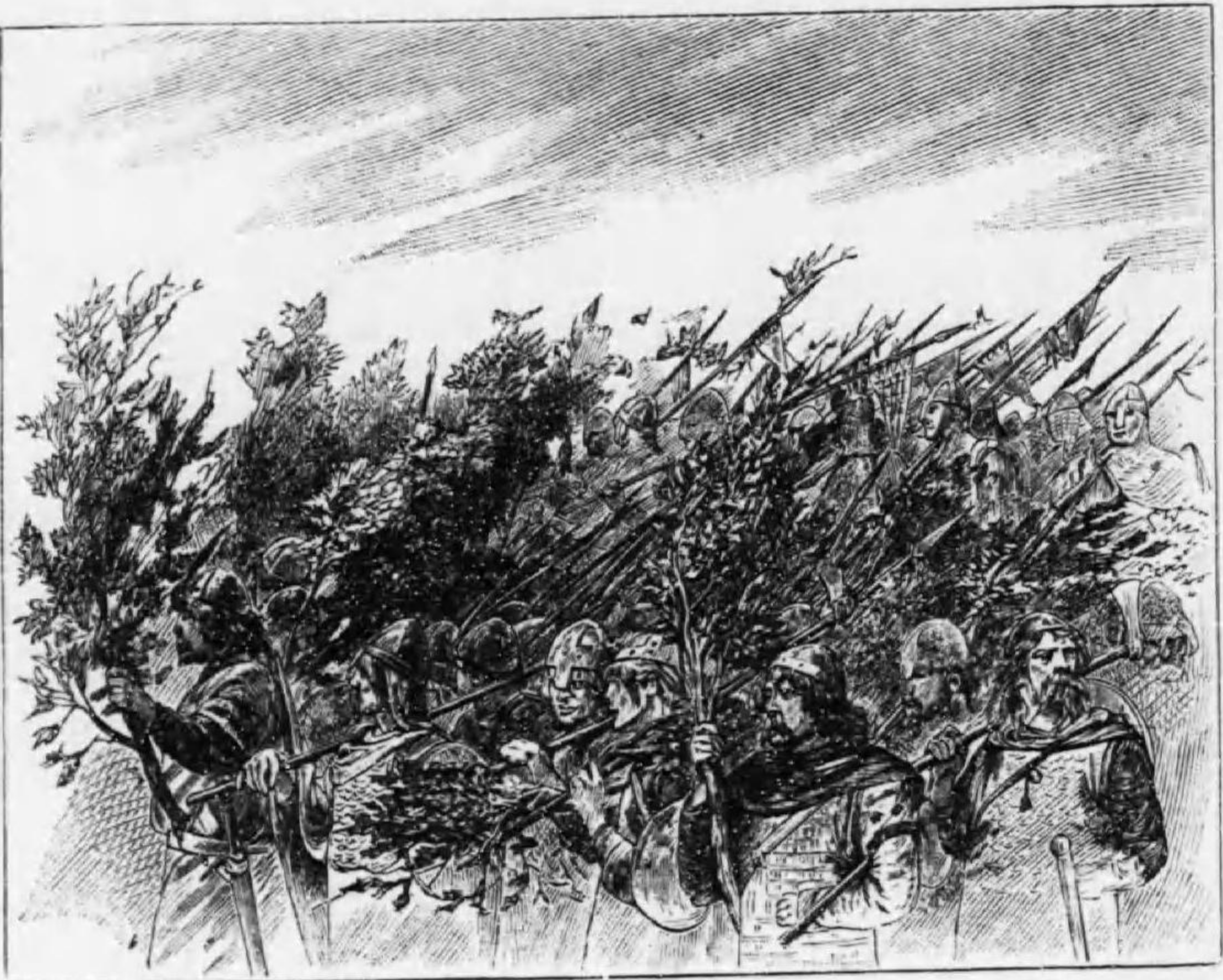
メンテ 大丈夫、もう直でございます。

シワー あの、前のは、何といふ森ですり！

メンテ バーナムの森です。

マルコ 兵士に、めい／＼一枝づゝ木を切らせて、それを翳して行進させませう。

さうして身方の兵數を蔽ひ隠して、敵の斥候に間違つた報告をさせませう。



兵士等 承知いたしました。

シワー 篡奪者は、深く恃む所あるらし

／＼、只ダンシネオンに肅として
ゐて、我軍の攻寄せるのを、居
ながら防がうとのみ致してゐ
ると承はりました。

マルコ 専らそれを持みとしてゐるの
です。といふのは、苟くも機會
さへあれば、大小名共は彼れに
離叛し、今では、止むを得ず心
にもなく止まつてゐる者の外
には、彼れに仕へてゐる者はな

いのです。

マクダ 身方の豫想の誤つてゐないといふ事は、之を事實の上に證據立てることにして、お互ひに勇士の職分を盡すことに奮勵させよう。

シワー 正當の裁決によつて、成敗得失を明かにする時が近づきました。空に考へてゐる中は、曖昧な望が成立つのみです。確實な結果を定める者は、打撃です。其目的の方へ兵を進めませう。

みな／＼、行進しつゝ入る。

第五場 ダンシネーン 城内

マクベス、シートン及び兵卒ら、太鼓及び軍旗と共に出て来る。

マクベ 外の城壁へ旗を立てる。まだ「敵が来た、敵が来た」と叫んでゐる。如何な

に攻めたつて、此堅固な城はびくともせんわい。いつまでも圍ませとけ
其中には飢饉と瘡とで人種が盡きてしまふ。身方の謀叛人共が應援さへ
しなけりや、此方から打つて出て、髭と髭と相觸れるまでに接戦して、本國
へ追返してくれるんだが……

奥にて女らのけたましく叫ぶ聲がする。

や、あの騒ぎは？

シートン 婦人たちの泣き聲でございます。

シートン 急いで入る。

マクベ 怖しいといふ味は、幾ど忘れた……夜の叫び聲を聞いて冷水を浴るやうに
感じた時代もあつた。凄い話を聞くと、頭髮が逆立つて、生きてゐるやう
に、動いたこともあつた。随分怖しい目にも逢つて見た。今ちやア人殺
しにも慣れてしまつたので、どんな怖しいことも、もう予を脅すには足ら

ん……

シートン 又出て来る。

何であんな聲をしたのだ？

シート お妃がお死去になりました。

マクベ

(嗚然として) やがて死なねばならなかつたのだ。いつかは一度然ういふ知らせを聞くべきであつた。……明日が来り、明日が去り、又来り又去つて、時は忍び足に、小刻みに、記録に残る最後の一分まで経つてしまふ。凡て昨日といふ日は、阿呆共が死んで土になりに行く道を照したのだ。……消えろ消えろ、束の間の燭火！ 人生は歩いてゐる影たるに過ぎん、只一時舞臺の上で、ぎつくりばつたりをやつて、やがて最早噂もされなくなる惨な俳優だ、白痴が話す話だ、騒ぎも意氣込も甚いが、たはいもないものだ。……

使者役 出て来る。注進を言ひ出しかれてゐる。

使者

汝は舌を動しに来たんだらう。早く言へ。

御前様……たしかに見ましたことを御注進申し上げるのでございますが、何と申し上げて可いか存じません。

マクベ

ま、いつて見ろ。

使者

丘の上で見張を務めてをりまして、バーナムの方面を見ましたところ、どうやら森が動き出しましたやうに存じました。

マクベ

嘘を吐け！

使者

もし間違つてをりましたら、どんなお怒でも受けまする、が、御覽なさいまし、こゝから三哩の處をやつてまゐります。へい、森が動いて来ります。

マクベ

もし嘘だと、すぐ手近の木に汝を吊して、飢死するまで打棄つておくぞ。事實なら、予を然うしたつて關はん。……予の決心がゆるんで、疑ひが起りかけた、悪魔めが、兩義語で、事實らしい嘘を吐いたのかも知れん。「バーナ

ムの森がダンシネオンへやつて来るまでは怖おそれるには及およばん。」ところが今森いまもりがダンシネオンへやつて来た。……武器ぶきだ、武器ぶきだ、さア打うつて出る！……彼奴あいつが證言しょうげんする通りとほのものが出て来たとする、逃にげても止とまつても駄目だめだ。……あゝ日ひの光ひかりを見るみのが厭いやになつた。此世界このせかいの秩序ちつじよも最早もうちうめちやくくになつてしまへ。……非常鐘ひじやうしようを鳴ならせ！……風かぜも吹ふけ、破滅はめつも来こい！せめて甲冑よろひを身みに著つけて死しなう。

入はいる。

第六場 ダンシネオン城の前

太鼓たいこと軍旗ぐんき。マルコム、老シロド、マクダツフ及び彼等かれらの部下ぶかの兵へい等らめいゝ木の枝えだを携たづへて出る。

マルコ

もう此處ここで可いい。其翳そのかげしの木きを棄すて、有ありのまゝの姿すがたを現あらはしなさい。叔父上おやぢ、貴下あなたは從弟いとこの御子息ごしやくと一ひとしよに、第一線だいいせんに當あたつていたゞきたい。マクダツフどのとわたしは其他そなたの作戦さくせん一切さいに任まかせませう、豫定よていの計畫けいかくに隨したがつて。

シワー

御機嫌ごきげんよう。……今夜こんやにも篡奪者せんじやくの兵へいに逢あへば、死しを期きして激戦げきせんしませう。

マクダ

さア残のこらず喇叭らっぱを吹立ふきたてる。どれにも息いきを入いれる、血ちを流ながし人ひとを殺ころす其喧そのかしましい先觸役さきふれやくに。

みな入はいる。

第七場 戦場の他の方面

警報けいはう(太鼓たいこ又は喇叭らっぱ)。マクベス出いて来きたる。

マクベ 子を柂に縛りつけやがった。逃げることは出来んけれども、熊が荒狂れるやうに奮闘してくれう。女に生落されん男といふのは何奴だらう？
そいつの他にや怖い者はないんだ。

息のシワード出る。

息シワ だれだ？ 名を名宣れ。

マクベ 名を聞きや慄え上るぞ。

息シワ 地獄の大悪魔にも優る名を名宣つたからツて、何の怖れるものか？

マクベ 予はマクベスだ。

息シワ 悪魔の聲を聞くよりも、予には憎く嫌はしく聞える。

マクベ のみならず怖しく聞えるだらう。

息シワ 嘘を吐け、穢はしい篡奪者め。此劍を以て汝の虚言を證明してくれう。

二人戦ふ。シワード殺される。

マクベ

汝は女に生落された奴だ。いや、劍も武器も取るに足らんわい、女に生落された奴が揮廻すのなら。

入る。

警報(太鼓又は喇叭)。マクゲツフ出る。

マクダ

此方の方に聞えた。虐主め、面を見せろ！もし汝が予の手で討たれないやうだと、妻や子供らの亡霊が、いつまでも予に附纏ふであらう。備はれて投槍を揮つてゐる惨な田夫共を撃つには忍びない。マクベス、汝と戦ふか、でなくば予は劍の刃一つ毀さんで、何もせず又鞘に收めなけりやならん。……あそこにあるに相違ない。あの甚い物音は、だれか身分の優れた者のあるといふ知らせだ。……運命よ、どうか奴を見附けさせてくれ！それ以上は望まん。

マクゲツフ入る。

マルコムと老シワードと出て来る。

シワー 此方です。城は柔順に引渡されました。虐主の部下の者は、兩派に分れて戦ひ、領主連も健氣な働きを致しをります。勝利は殆どお手に入りました。もう如何せんでも可い位です。

マルク 敵であつて、身方側で働いてゐる者を予も見つた。

シワー さ、御入城なさい。

みな入る。警報。

第八場 戦場の他の方面

マクベス 出る。

マクベ 羅馬の愚人の真似をして己が剣で自殺なんかするには及ばん。生きた奴



に出逢ふ限りは、叩き切る方が優だ。

斯う言ひく、一方へ去らうとする。此時マクダツフ出る。

マクダ やい地獄の番犬め、戻れ！ 戻

れ！

マクベ 汝だけは避けるやうにしてゐたのに……やい、歸つて行け。子の靈魂は、もう已に、汝の一族の血の負擔に堪へかねてゐる。

マクダ 問答しようとは思はん。子の聲は此劍に在る。うぬ、言語道断の情知らずめ！

二人戦ふ。

マクベ 無駄な骨折だ、其劍で、予に血を流させることが出来るやうなら、切ることの出来ん空氣にも切形が附けられるだらう。其刃物は傷の附けられる頭の上へ打下すが可い。子の生命には呪ひがしてあるから、女に生落された男なんかには、やツつけられる虞れはないのだ。

マクダ その呪ひは駄目だと思へ。汝が常住信仰してゐる守神に聞直して來い、マクダツフは、其母の腹を裂いて、生まれる前に取出された人間だぞ。

マクベ (愕然として)おのれ、憎やく、其舌の根！ 其一言で子の勇氣が挫けてしまつた！ あの嘘つきの悪魔どもめ、兩義の語で人を欺き、耳へは約束を守らしく聞かせておいて、肝腎の望を失はせをる悪魔どもめ、もう信ずる

とではないぞ。……(マクダツフに) 汝とは戦はん。

マクダ ぢや降参しろ、卑怯者め。生存へて世間の見せものになれ。珍しい妖怪の様に、汝の畫像を棹に垂下げて、すぐ其下に「評判の虐主」と書かせてくれう。

マクベ 降参なんかして、あの青二才のマルコムマルコムの脚下で地面を嘗めたり、愚民共に呪ひ辱められるやうな目に逢ふものかい。たとひバーナムの森がダンシネオンへやつて來ようと、女に生落されん汝が立向はうと、最後の運試しをしてくれる。此通り楯は抛棄てる。さ、打つて來い、マクダツフ、戦ひ半ばに「待て！」と呼掛けた者は地獄へ落ちるぞ。

二人戦ひつゝ、入る。警報。

退軍。喇叭盛奏。太鼓及び軍旗と共にマルコム、老シワード、ロツス及び他の貴族、兵士ら出て來る。

マルコ 今此處にをらん身方の人たちが、どうか無事に戻つて来てくれ、ば可いが。
 シワー 多少の戦死はまぬかれませんが、見受ける所、割合に廉價に大勝利を買
 ひ得たわけです。

マルコ マクダッフが見えないし、お子息が見えない。

ロッス 御子息は武人の負債をお拂ひになりました。一男子とならるゝまでの御
 壽命でした。勇敢に一步も退かず戦つて、男子たることを證明せらるゝや
 否や、いかにも男子らしく戦死なされました。

シワー ちや戦死しましたか？

ロッス はい、さうしてお遺骸は持歸りました。御子息の御戦死は其徳を目安とし
 てお量りなされた時分には、お歎きに涯がありますまいぞ。

シワー 創は向う創でしたか？

ロッス はい、額の創です。

シワー それでは、神のお親兵となりをし
 れ！ 尙外に、頭髮の數ほど作
 があつたとて、さういふ死方以
 上を望まうとは思ひません。こ
 れで最早哀悼は終みました。
 マルコ いや、更に大いに哀悼すべきで
 す、それはわたしが勤めませう。
 シワー もう澤山です。立派な死様を
 して、武人たるの責を盡したと
 いふことですから、それで最早
 十分です！……あそこへ更に
 又めでたい知らせが來ました



ぞ。

マクダツフ 槍の先にマクベスの頭を貫き携へて出る。

マクダ

國王陛下萬歳！ もはや王とならせられましたぞ。篡奪者の憎むべき首

の此體を御覽なされませ。天下は泰平と相成りました。陛下を圍繞する

國家の盛飾たる人々は、いづれも私と同様の祝詞を奏しようとしてをられ

ると見受けまする、どうか私と聲をお合せ下さい、スコットランド王陛下

萬歳！

皆々

スコットランド王陛下萬歳！

喇叭盛奏。

マルコ

いづれ遠からんうちに、諸君のそれ々の忠勤を取調べて、お報いを致す

積りです。領主たち及び近親の人たちは、其後は伯爵とお名宣りさない

スコットランドで此爵を名宣る最初の貴族とおなりなさい。同時に新に

爲すべき事は、彼の嚴しい虐主の見張をのがれて、辛うじて海外に流浪し
てゐる身方の人たちを呼返す事、あの殘酷な殺人者と其……自殺を遂げた
といふ噂の……鬼妃に仕へてゐた非道な役人共を召喚する事、是れら及び
其他の必要な事一切を、神明の祐けによつて、程と時と處とを得て、實行す
ることにはませう。で、一齊に、各人に感謝します、さ、どうかスコーンの
即位式に參列して下さい。

喇叭盛奏。皆入る。

* * * * *

マクベス (完)

附 録

日本に於ける沙翁研究、翻譯、翻案、及び上演の畧誌

シェークスピアの名を、はじめて日本に紹介した人及び年月、其作の名若しくは概略を最も早く其著譯中に紹介した人及び年月、沙翁といふ宛字あてじを最初に用ひた人及び年月などといふ事も、調べ方によつては、随分沙翁學史の一種の面白い逸話材料ともなるべきであるが、今は地方滯在中で、調査の便宜に乏しいから、只肝要な且つ確實な事蹟のみを述べることにする。

我國で、規則立つた方法によつて、英國の純文學、殊に詩歌ポエトリを研究したのは、一ツ橋の東京大學に文學部が設置されてからの事である。其以前の英文學者は、よし

有つたにもせよ、概して變則流の、語義の解讀者たるに過ぎぬ人々であつたらうから、英文學を愛讀したにしても、恐らく古文學クラシックには幾ど目を觸れなかつたであらう。ところで、東京大學に文學部の置かれたのは明治十年七月で、其最先の學生は、今の博士井上哲次郎氏、故岡倉覺三氏、和田垣謙三氏、其他七八名であつたと、和田垣博士自身の話である。同氏の記憶によると、其時の教科書は最も古いところではスペンサーの「仙女物語フェアリクイーン」など、次に沙翁物では、「ジュリヤス・シーザー」、「リヤ王」などであつたといふ。此英文科は、其後尙ほ四年程は、同じ組織のままに繼續したのであつて、明治十六年に得業した自分の如きも、和田垣氏等が從學した其同じ教師の米國人ホートン氏に就いて沙翁物の講義を聽いた。自分の在學の時には、「マクベス」の全部、「マーチヤント・オブ・エニス」の法庭の場、「ジュリヤス・シーザー」の演説の場、「リチャード二世」の全部等を教場で讀んだのを記憶する。教師は難句の解釋をすると共に作の批評、人物の剖判をして生徒に聞かせ

た。其頃には、東京大學の圖書館にも、表立つた沙翁の註釋書といつてはロルフのとクラレンドン版のとがあつたばかりであつた。ホートン氏は、甚だ寡黙な篤學者で、其解釋や批判は精到ではなかつたが、要を得てゐた。劇中人物の性格解剖を試みたのは、日本に於ては、ホートン氏が全くの第一人者であつたらう。それから、個人には如何な研究者があつたか知らないが、講堂に於ける沙翁の研究は、此東京大學のが眞先であつたであらう。

明治十六七年前後には、ともかくも沙翁の名だけは廣く知られた。或はチャールス・ラムの「物語ナールス」によつて紹介され、或は、甚だ不完全な自由譯ながら、一二の作が紹介された。早稲田大學の前身、東京専門學校は、其創立の當時(明治十五年)から、英文學の主な一課として沙翁を据ゑ、今の文相高田早苗氏が「マクベス」の講義を擔當した。多分他の高等な官私立學校でも、たとひ一課としては設置しないまでも、沙翁を英文學の一大權威として、其頃から次第に重きを置くやうにな

つたには違ひない。併し年々連続して、一の特設科として、各年級に亘つて研究させたのは、恐らく前に謂ふ東京専門學校と其後身の早稻田大學文學科とのみであつたらう。それは明治廿三年から大正四年までの間であつた。

沙翁の翻譯を試みた卒先者は、和田垣氏の話に據ると、同氏らしい。氏は明治十二年、コレラ病流行の年に、其學友四五名と、避暑を兼ねて、之を箱根に避けて、七八兩月の間に、漢文で「リヤ王」を譯し、「李王」と題したことがあるさうだ。これは、主としてホートン教授の簡にして要を得た批判解説に感興を促された結果であつたとは、氏みづからの話である。それを除いては、最も早く沙翁に關したものとて人口に膾炙したのは「人肉質入裁判」といふ大岡捌めいた標題である。自分の如きも、早くから此標題を聞知つてゐたが、しかも其内容は、チャールス・ラムに據つた「マーチヤント・オブ・ゼニス」であるやら、原文の抄譯であるやら、曾て讀んだことも見たこともないから、分らない。井上勤氏の譯であつたといふ。

明治十六年の出版である。

明治十六年以後の分は、各所の圖書館書目其他によつて、略下表の如き順序だといふことが分る。匆卒の調査で、内容の不分明なものもあり、恐らくまだ脱ちてゐるものもあらうと思ふが、後日の書入の便宜に、年月順に排列しておく。この表は、研究と翻譯とを主としたゆゑ、上演を目的として臨時に綴られたやうなのは、載せてないから、それは別の上演の表を参照せられたい。

沙翁に關する著譯類年順表

明治十七年	該撒奇談 (自由太刀餘波鏡録)	坪内雄藏譯	東洋館
同十九年	羅馬盛衰鑑 (シーザー)	篠林學人戲譯 天香逸史	駁々堂
同二十年	仇結奇 西洋娘節用 (ロミオ?)	木下新三郎譯	?
同	哀別 誠之鏡 (?)	赤司新三郎譯	?
同再版	露妙樹 春情浮世之夢 利戲曲	河島敬藏譯	?

同	明治二十一年	自由之答 恩愛之繼	豪傑一世鏡 (ヨリオレナス)	板倉與太郎譯	?
同	同二十四年	マクベス (第一稿)	坪内雄藏譯	早稻田文學に連載 第一幕終まで	
同	同	人肉質入 法廷之場 講義録	磯部彌一郎講述	國民英學會文學會	
同	同二十五年	ジュリヤス・シーザー講義	大倉本澄	?	
同	同三十四年	妖怪(?)	一柳松菴譯	?	
同	同三十六年	マリーチャント・オブ・エニス 法廷の場	土肥春曙譯述	服部書店	
同	同	マクベス、あらし及第十二夜 梗概 (通俗世界文學二編)	杉谷代水	富山房	
同	同	ハムレット、エニスの商人 ハムレット (同 六編)	中島茂一	同	
同	同	ハムレット (翻案)	土岸肥春譯	同	
同	同	ハムレット (梗概)	小波	太陽所載	
同	同	オセロ (翻案)	江見水陸	文藝俱樂部所載	
同	同三十七年	沙翁物語集	チャールス・ラム 小松武治譯	?	
同	同	ロミオ・エンド・ジュリエット	小山内撫子 口述	歌舞伎所載	

同	明治卅八年	ハムレット (沙翁全集一)	戸澤姑射譯	大日本圖書株式會社
同	同	ロミオ・エンド・ジュリエット (同二)	同	同
同	同卅九年	エニスの商人 (同三)	淺野馮虛譯	同
同	同	オセロ (同四)	戸澤姑射譯	同
同	同	リヤ王 (同五)	同	同
同	同	から騒ぎ (同六)	同	同
同	同	シーザー (同七)	同	同
同	同	はむれつと	山岸荷葉藏案	春陽堂
同	同	沙翁物語十種	小松月陵(武治)譯	?
同	同四十年	御意のまゝ (沙翁全集八)	淺野馮虛譯	大日本圖書株式會社
同	同	行違物語 (同九)	戸澤姑射譯	同
同	同	十二夜 (同十)	淺野馮虛譯	同
同	同四十二年	悲劇オセロ	菅野徳助譯註	玄黃社
同	同	西洋淨瑠璃 ハムレット 靈驗皇子の仇討 (存稿後 篇の内)	外山正一	?

同	喜劇御好次第	翠生 譯	演藝俱樂部所載
同	ハムレット	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
同 四十三年	ハムレット 研究	平田元吉	富山房
同	新シエクスピヤ	笹山準一 譯	精華堂書店
同	眞夏の夜の夢	浦瀬白雨	帝國文學所載
同	ロミオとジュリエット	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
同 四十四年	ハムレット物語	相馬御風	富山房
同	オセロー	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
同 四十五年	リヤ王	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
大正二年	マクベス	森鷗外 譯	警醒社
同	ジュリヤス・シーザー	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
同	ロミオ・エンド・ジュリエット	萩園生	大阪文藝畫報所載
同 三年	ロミオとジュリエット (新潮文庫 廿六編)	久米正雄 譯	新潮社
同	ハムレット (同廿八編)	久米正雄 譯	同

同	アントニーとクレオパトラ (梗概)	石川幸三郎	耕山堂
同	同 (同)	守田有秋 纂譯	日吉堂本店
同	同 (世界エッセンス、シリーズ) (同)	加藤朝鳥	青年學藝社
同	クレオパトラ	島村抱月 改作	新潮社
同	エニスの商人	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
同	マクベス物語 (世界エッセンス、シリーズ 廿三編)	岩野泡鳴 編	青年學藝社
同	沙翁傑作集 (梗概)	村上静人 譯	佐藤出版部
同	沙翁史劇物語	小松武治 編	北文館
大正四年	シエクスピアー物語	後藤一郎 譯	三光堂
同	テムペスト	坪内逍遙 譯	早稻田大學出版部
同	アントニーとクレオパトラ	同	同
同	眞夏の夜の夢	同	同

別に、年月不明の分

幽	靈 (ハムレット?)	井上 勤 譯	?
鏡花水月	(コメテイオブエロルス)	渡 邊 治 譯	?
みなれざを	(オールス、ウエル、ザツト、エンヅ、ウエル)	和 田 萬 吉 譯	?
セキスビーヤ物語		品 田 太 吉 譯	?
シェークスピア物語		勝 田 孝 興	建 文 館
シェークスピア傳	(?)	原 田 愿	内外出版協會
ゼニス商人	(青年英文學叢書三)	菅 野 徳 助 等 譯 註	?
ハムレット	(同 十)	同 著	?
オセロ	(同 十六)	同 著	?
ロミオとジュリエット	(同 十八)	同 著	?
ハムレット(評論)	(?)	木 村 鷹 太 郎	?

此中明治三十八年以前の分は、極少数を除くの外は、大抵ラムの物語の意譯か、原作の或一部の講註か、抄譯か、翻案かである。尙右の表に漏れたもので、新聞紙の續物として翻案された沙翁物がある。其最も

古いのは大阪朝日新聞及び毎日新聞所載のそれで、翻案者は宇田川文海氏である。それは「四つの緒」と題した「アズ・ユー・ライキ・イット」、「何櫻彼櫻錢世中」と題した「マーチャント・オブ・ゼニス」、「阪東武者」と題した「オセロー」、「船戦」と題した「マクベス」、「悪縁」と題した「ロミオ・エンド・ジュリエット」などで、文海氏の話に據れば、第一は明治十四五年頃(?)、第二は同十七年の春、共に大阪朝日、次に、第三の「阪東武者」以下は大阪毎日の所載で、おの／＼廿五年九月、廿七年十二月、卅年十一月よりといふ順序であつたといふ。其中「四つの緒」は「汝所好」と改題して、後に東京の金港堂から一冊子として發行したやうに記憶するといふ翻案者自身の話。尙ほ此種翻案物の事は、別表上演史の方を見合せられたい。東京では、東京繪入新聞に、故條野傳平氏が、「リヤ王」を翻案して連載したことがある。それは早くも明治廿二三年頃かと思ふが、たしかには思ひ出されぬ。大抵翻案は、二重三重に手を経るのを例とするから、沙翁研究の歴史上には價値の

乏しいものであるといつてよい。宇田川氏の翻案の如きも、原譯者は別にあるらしく、随つて原作と比べると、翻案は、ほんの荒筋を移したゞけのものになつてゐるのは勿論の事である。

以上の調査によつて、我國に於ける沙翁の紹介も、とにかく四十年に及んでゐることが分り、甚だ不十分ながら、種々の著譯も出來てゐるのであるが、其研究が組織立つてゐない證據には、眞摯な研鑽の餘に成つたらしい信憑するに足る傳も、論も、入門書も、平田元吉氏の「ハムレット研究」を除くと、只の一冊もない。平田氏のは念入の著述ではあるが、研究が、只一脚本に偏してゐるのと、今の沙翁の入門書とするには、少々學者式過ぎてゐるのが遺憾である。我國では、沙翁研究は、まだ殆ど著手されてゐないのだといつてよい。併し外國に於ける舊式の沙翁研究が、今日となつては、餘り有益であつたとも思はれないのを思ふと、むしろ新しい著眼で、これから徐ろに研究した方が有利だともいへる。目下我國に必要な

のは、沙翁研究法の變遷及び其批判に關する知識である。その知識を得て研究に掛らぬと、とんだ浪費を、時の上、勞力の上にする事になる。沙翁研究の棊の良好なものが出來たなら、種々の關係に於て、我將來の文藝に裨益するであらう。

前の翻案の話の序に言ふべきことであつて、言ひ落したことがある。それは福地櫻癡の作「豊島嵐」が、多年同氏が思ひ立つてゐた、「ハムレット」の翻案であることである。同書の世に公にされたのは、明治卅年以後であつたが、其翻案の思ひ立は、餘程前からのやうであつた。それから故川尻寶岑も「ロミオ・アンド・ジュリエット」の筋を借りて「新妹背山」といふ脚本を作つたといひ、狂言作者の故榎戸賢二も、「ハムレット」を應仁の亂へ持込んで「應仁革命結城譚」と題し、「歌舞伎新報」に載せたことがあると山岸荷葉氏の話。又故河竹默河彌の自筆の、僅か六七葉の覺え書に「ハムレット」の極粗い筋書がある、それは多分、明治十二三年頃に福澤翁の

聞書したものであらうといふことである。默阿彌は、何かにそれを利用しようといふ氣があつたらしい。併し此人々の着眼は、一向筋立ひたすらにのみ在つたといふことは「豊島嵐」の翻案振によつても分る。性格上の興味、人生問題としての興味に重きを置くやうになつたのは、一般の傾向としては、明治も三十年以後である。

以上の外に、雑誌又は新聞紙の上で、時々発表された評論又は外國に於ける新研究の紹介やうの文章、外國雑誌に見えた沙翁論の、又は沙翁に關する新著述の幾部分かの翻譯に屬するものなどがあつた。しかし獨立の、全く新しい研究の結果と見做すべきものは、まだ一もなかつたといつてよい。

譯文の調子も、研究の進歩につれて、著しく變遷した。明治廿年前は、純文學といへば、徳川末期の戯作調子ケササか、漢文脈か、國文脈かの孰れかに支配されざるを

得ないやうになつてゐたので、演劇といふ因縁上、沙翁物は自然の連想から、淨瑠璃や默阿彌式の臺帳に擬せられたといふことは、最先に掲げた諸翻譯の表題の附け方にも窺はれる。随つて其内容の文脈もそれに相應して、或は淨瑠璃まがひの七五調式で綴られ、或はずつと碎けて草双紙の調子、又は較、新しい漢語まじりで書かれてある。其頃の譯文は、原作の調子や匂ひや味ひには頓著なく、ひたすら日本人の玩賞に適するやうにと骨折つてゐたかのやうに見える。此日本化式努力は、餘程長く續いた。自分なども其一人で、「該撒奇談」を勝手に譯した時分は論外としても、はじめて「マクベス」の逐語譯を試みた當時とても、殆ど奴隸的に原義を重んじながら、國劇から來る連想に壓迫されて、結果は常に甚しい日本化となつた。餘の人々のも皆さうであつた。これは、一つは國文法に則つた文語で譯さうとした無理にもとづく。文語に伴ふ背景といはうか 連想といはうか 一種の物があつて、それが感動調子エモーショナルになればなる程、其結果を 原文とは調子や

味や匂ひやの異つたものにしてしまふのである。二つには、たれも彼れも、沙翁劇の舞臺知識が無かつたか、乏しかつたからである。同時に、或者は國劇の知識さへなく、又或者は國劇の連想が多過ぎるので、いよゝ不釣合な結果を醸した。口語體の發達に伴ふ新代語の利用は、此弊を救ふに與つて少からぬ功があつた。劇として特殊な連想や背景が附纏つて來ないだけでも、現代語脈の口語體は便利であるのに、之に較、古い口語、方言等を適宜に加味すれば、其雅俗、高卑、軟硬、濃淡、いづれとも自在な點、其語林の豊富な點、其感覺的な點、其自然でさうして直截な點などに、到底文語を以てしては企及しがたい長所があつて、比較的沙翁物を譯するには調法である。併し、餘り口語脈といふことに執着して、所謂山の手式の、不熟を極めた、直譯まじりの現代語に片荷すつたり、又は餘りに純粹な、下町式の東京語に拘泥したりとすると、明治大正の或特殊な社會臭味といふ連想が附帶し過ぎるのが一つの大きな邪魔物となるのみならず、語林が餘りに狭

少にも貧弱にもなり、調子が一體に、淺俗にも露骨にも無風韻にもなつて、迎もあの流麗な、多方面な、音韻上にも色彩上にも富贍を極めてゐる原作の趣味を髣髴せしめようがない。沙翁物の翻譯に用ふる口語體には、まだく工夫の餘地が幾らも残されてあるらしい。喜劇はまだしもだが、悲劇の譯し方に就いては、自分などは未だに確信を有つてゐない。既刊十冊中、悲劇に屬するものは、大概未定稿である。就中、最も多く文語脈を用ひて譯した「ハムレット」、「ロミオとジュリエット」及び「オセロー」の三部は、改譯を要するものである。自分は、第二の沙翁傑作集十卷を試譯して、此等過去の未熟と過失とを補正したいと思つてゐる。

さて、上演の歴史はと見ると、これは明治十八年以前には何の見聞する所もない。一應、意外に思はれることは、沙翁劇の最初の上演が、勿論翻案ながら、新文華の本源地の東京で、はなくて、商業地の大阪であつたといふ事である。が、これは

不思議ではない。東京には、當時團菊がまだ全盛で、どの座も舊劇の世界であつたからである。そこに至ると、大阪は、藝術上の鑑賞が粗で、自由で、何でも珍らしければ歓迎するといふ例なので、ずつと早くから彼の「自助論」中のパリス傳のやうなのが舊俳優の成功目録の中に編入された。其同じ氣受と手心とが、東京よりも先に沙翁物の翻案を上演せしめたのである。此上演の歴史にも、まだ多分調べ落しがあらうと思ふから、一目で見分けられるやうに下に表にして掲げる。

沙翁劇上演の大略

年 月	外 題	脚 色 者	役 者	座
明治十八年 四月	何櫻彼櫻錢世中 (ア・エニニスト・オ)	勝 諺 藏脚色 宇田川文海原案	橋三郎、壽三郎、琥珀郎、 みんし、鶴助、宗十郎	大阪 戎 座
同 廿四年 七月	該 撒 奇 談	島山吾瓶脚色 坪内逍遙譯	伊井、深澤、福島、松平	東京 明治座

同 廿五年 九月	闇 と 光 (キング・リヤ)	高安 月郊翻案	福井、村田、木村、加藤、 河合静夫、藤井	京都 南 座
同 卅六年 一月	同	同	同	大阪 辨天座
二月	オセロ	江見水陸翻案	川上、貞奴、高田、藤澤、 服部、九女八	東京 明治座
三月	同	同	同	大阪 浪花座
三月	同	同	同	神戸 大黒座
三月	同	同	同	京都 歌舞伎座
六月	マーチャント・ オブ・エニス	土肥 春曙譯 (法廷の場)	川上、藤澤、貞奴、福井、 兒島、柴田	東京 明治座
七月	同	同	同	横濱 喜樂座

年	月	外題	脚色者	役者	座
同廿六年	八月	闇と光(キングリヤ)	高安 月郊 磯案	福井、都島、吉永、河合、櫻木、兒島、柴田	横濱 喜樂座
	十月	同	同	同	東京 國華座
	十一月	ハムレット	土山岸 肥春 荷葉 (翻案)	川上、貞奴、藤澤、福井、佐藤、中野、柴田、九女入	同 本郷座
同廿七年	二月	マーチヤント・オブ・ゼニス	土 (肥春 曙 (法庭の場))	川上、貞奴、高田、河合、秋月	大阪 朝日座
	十月	ハムレット	山岸 荷葉 翻案	川上、貞奴、守住、静岡、山本	京都 明治座
	十月	同	同	同	神戸 大黒座
	十一月	同	同	同	東京 本郷座
同廿八年	二月	マクベス	古島 華 水述 瓶脚色	伊井、水野、福島、中村、井上、關、丸山、藤井、若水、佐々木、瑞宗、馬十、喜多村、小島、秋月、福井、原辰一	大阪 朝日座

年	月	外題	脚色者	役者	座
同廿九年	六月	ハムレット	?	伊東、白石	京都 岩神座
	七月	ヘンリー王	?	河合、白川、小織、福井、山田、佐々木、秋月	大阪 朝日座
	八月	ハムレット	?	角藤、清水、堀	大阪 堀江座
	九月	オセロ	?	伊藤文雄一座	大阪 中座
	十一月	ゼニスの商人 (法庭の場)	坪内 逍遙 譯	東儀、水口、土肥 文藝協會	東京 歌舞伎座
同四十年	三月	ハムレット	?	錦糸、米花	東京 三崎座
	四月	ロミオ・エンド・ジュリエット	?	静岡、金泉、熊谷、幽蘭、女、アダリ、久保田	京都 明治座
	六月	人肉質入	?	茂々太郎、信濃、島田二郎	大阪 稻荷文樂座
	七月	ハムレット	?	木村、藤川、山本、津坂	同 福井座
	十月	オセロ	?	後藤、月岡、静岡、高部	東京 演伎座

年	月	外題	脚色者	役者	座
同四十年	五月	ジュリヤス、シーザー(英語劇)(二幕)		荒川、宗之助	東京 東京座
	六月	アズ・ユー・ライ キ・イット	原語	英米人慈善演劇會	東京女學館
	八月	ハムレット	?	島居、島田、酒井、若水、山崎	東京 眞砂座
	十月	はむれつと	山岸 荷葉齋案	小園治、時藏、女寅、若 蓮、左團次	同 明治座
	十一月	ハムレット	坪内 逍遙譯 (三幕)	大島居、水口、東儀、土 肥、文藝協會	同 本郷座
同四十一年	一月	エニスの商人 (法庭の場)	坪内 逍遙譯	左團次、女寅、壽美藏、 松島、福助、梅玉、延二郎	東京 明治座
	六月	同	同	同	京都 南座
	七月	同	同	同	神戸 大黒座
同四十二年	一月	エニスの商人 (法庭の場)	山岸 原案 竹柴 某改作	錦糸、米花、千升、紀久 八	東京 三崎座

年	月	外題	脚色者	役者	座
同四十三年	五月	エニスの商人	?	熊谷一座	大阪 九條繁榮座
	六月	御安塔 <small>マツチ・アツ・アバウト・ナシング</small>	春葉 脚色	伊井、藤澤、佐藤、木下、 福島、井上、木村、藤井	東京 本郷座
同四十四年	三月	ロミオと ジュリエット	?	川上、貞奴、山本、荒川、 福井、藤井	大阪 帝國座
	四月	悍婦ならし	松葉 齋案	伊井、河合、	東京 帝國劇場
	五月	ハムレット	坪内 逍遙譯 全部	東儀、土肥、加藤、松井 文藝協會	同
	三月	はむれつと	同	雁次郎、梅玉、福助	大阪 中座
	五月	響 (タイモン・オフ アセンス 翻案)	小島孤舟 脚色	錦糸、米花、千升、鶴枝、	東京 三崎座
	五月	同	同	延二郎、我童、芝雀、吉 三郎、瑠璃	神戸 大黒座
	七月	同	同	延二郎、成太郎、吉三郎 瑠璃	京都 歌舞伎座
	八月	同	同	中村、西川、佐藤、吉永 藤川、高梨、木下、梅之 助、山崎	東京 眞砂座

年 月	外 題	脚 譯 色 者	役 者	座
同 四十四年 七月	ハムレット	同前	東儀、土肥、加藤、松井、文藝協會	大 阪 角 座
七月	闇 と 光 (キング・リヤ)	高安月郊舞案	自由一派	北 海 道 大 黒 座
十月	響		伊井、伊藤	大 阪 九 條 歌 舞 伎 座
十一月	エニスの商人 (法廷の場)	坪内逍遙譯	東儀、土肥、文藝協會	東 京 帝 國 劇 場
十一月	響		歌扇、歌江、桃代、雛助、森、藤崎、松下、鬼頭、東、高麗三郎、千臣、松助、幸四郎、房子、浪子	横 濱 喜 樂 座
同 四十五年 二月	陽氣の女房 (二幕)	松居松葉譯	東儀、土肥、文藝協會	東 京 帝 國 劇 場
三月	エニスの商人	逍 遙 譯	松尾、吉田、高橋、境、松田	大 阪 中 座
四月	響		横 濱 アマチュニア・クラブ	横 濱 羽 衣 座
五月	眞夏の夜の夢	原 語		帝 國 劇 場

大正元 年 月	外 題	脚 譯 色 者	役 者	座
十 月	トエルブス・ナイ	?	松尾一座	横 濱 羽 衣 座
十一月	マアチャント・オプ・エニス・ロミオ・エンド・ジュリエット・ハムレット・オセロー	(一日替)	英 國 旅 役 者 アランウイルキー一座	東 京 帝 國 劇 場
十一月	沙翁劇	(一日替)	アランウイルキー一座	大 阪 中 座
同 二 一 年 一 月	エニスの商人	原 語	在留外人劇	東 京 帝 國 劇 場
三 月	同 (法廷の場)	坪内逍遙譯	左團次、松島、荒次郎、左升、市十郎	同 本 郷 座
五 月	響		小神、原、松平、秋野	大 阪 彌 生 座
六 月	シーザー	坪内逍遙譯	東儀、土肥、加藤、森、大浦、秋元(文藝協會)	東 京 帝 國 劇 場
九 月	マクベス	森 鷗 外 譯	上山、加藤、浦路、孔雀、近代劇協會	同
十 月	響		原田、原、國松、河原、桂、志村、姉藏	横 濱 羽 衣 座

年 月	外 題	脚 色 者	役 者	座
同 三 年 一 月	オセロ	坪内逍遙譯	東儀、土肥、秋元	東京 帝國劇場
九 月	響		森、松尾、池田、井口、柳川、藤村、小森、境	同 蓬萊座
十 月	クレオパトラ	島村抱月改作	須磨子、中井、武田、勝見、田中、元安、花田、宮城	東京 帝國劇場 (後に改作あり)
十 一 月	響		松尾	同 牛込座
同 四 年 五 月	ゼニス <small>の商人</small> (法廷の場)	原 語	宗之助、長十郎、律子、柏木、南部、岸田	同 帝國劇場
五 月	同 (同)	坪内逍遙譯	森、小牧、律子、佐々木、川井、金井、舞臺協會	同 同

上表に在留外人及びウイルキー一座の上演をも載せておいたが、外人の上演は、右の外にもあちこちであつたと思つて貫はねばならぬ。例へば、英國又は米國の

旅役者の沙翁上演は、明治廿五六年以後、折々横濱の今のゲイイチー座の前身、山の手の公會堂パブリック・ホールで催された。現に卅年頃(?)に米國の旅役者ミルン一座が同處で、一週間程、一夜がはりに、「ハムレット」、「マクベス」、「オセロ」等を演じたのを觀た。其後も米國の旅女優が、一座を組織してではなく、何かの序か都合かで、座員又は下廻り三四人と共に、日本に立寄り、濱で二晩、築地で一晚といふやうな風に、ほんの得意の見せ場だけを出したこともあつた。又素人外人の催しとして、濱又は東京で、或は公に、或は私邸内で、沙翁劇の幾幕かが演ぜられたことは屢々あつたであらう。それから諸處の學校で、英語練修の一法として、沙翁劇の一場、二場を演ずることが行はれた。いづれも三十年以後である。

名は沙翁劇といつても、四十年前までは、翻案でないのとても、いはゞ筋を辿つたばかりともいふべきもので、解釋も、演出法も、まるきり日本式で、科介、表情

等も、新派風か舊劇風であつた。それが、文藝協會の最初の「ハムレット」以來、とにかく新式になり、活動寫眞畫によつて紹介さるゝ外國劇、就中沙翁劇を参照することによつて更に幾らかの新味を加へ、外國に遊んで特に劇を研究して歸つた松居松葉氏の如きを得て、扮装、舞臺装置及び科介の上にもおひ／＼本場好みを應用するやうになり、我所謂沙翁劇も次第に進歩し、とにかく舊劇や新派劇とは、種々の點に於て、全く別趣味のものとなるやうになつた。日本に於ける舞臺上の沙翁研究は最近四五年間に長足の進歩をしたと評しても過言でない。併し尙ほ、これは日本人の解釋に成れる沙翁劇だといつて、佛、伊、獨、露の諸名優と並んで、英國人其他の外人の前に、我同胞の演出を誇示することが出来るやうになるまでには、まだ中々遼遠なことであらう。

大正五年二月初旬

熱海別宅にて起草す

譯者 逍遙

大正五年三月二十二日印刷
 大正五年五月二十二日再發行
 大正五年六月二十八日三版發行
 大正五年八月十五日五版發行
 大正九年四月二十五日七版發行
 大正十二年四月二十八日八版發行

(不許複製)

付與スベクマ
 (正價金貳圓五拾錢)

譯者 東京市牛込區余丁町百十四番地 坪内 雄奇
 發行者 東京市牛込區辨天町百五十七番地 種村 宗八
 印刷者 東京市牛込區櫻町七番地 渡邊 八太郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部

(振替口座東京二二三番)

—[刷印社會式株刷印清日]—

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集

(第七編)

テムペスト

(六版) 寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

この作は沙翁の絶筆だといはれてゐる。それに關しては卷末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマンチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獸の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

沙翁傑作集

(第八編)

アムニタグレオトラ

(六版) 三色版口繪入
木版密畫多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

沙翁の偉大なのは其作の爛れ出て、傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんが、熾烈なる肉の戀愛を全うせんかといふ大デレンマに逢著した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味が漲る。

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集

(第九編)

真夏の夜に夢

(五版) 三色版口繪入
木版密畫多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない。醉乎として醉な作である。先づ「テムペスト」に似たものだといへるが、若い時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。いろ／＼な妖魔が頻に跳梁して恣に人間を翻弄する。人妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脱して、而も條理が整然としてゐる。愛情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

沙翁傑作集

(第十編)

マクベス

(八版) 三色版口繪入
木版密畫多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技術の圓熟期の作である。ドストエフスキの「罪と罰」の結構を更に雄大にし、さうして劇化し、わが國へ來た此劇の活動寫眞ばかりでも三種以上あつた。以上「マクベス」以上と稱せられる。特に本編には、附録として、譯者が日本に於ける沙翁研究、翻譯、翻案及び上演の略誌を添へた。これは我國での沙翁研究の沿革を精査したもので、著題譯者、俳優、劇場まで詳かにしてある。沙翁研究者の必讀を要する。口語體で譯されてあるだけに、所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。

發行所 早稲田大學出版部

發行所 早稲田大學出版部

文藝博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第十一編)

火尺報尺

本篇は沙翁が作中で最も皮肉な喜劇と特稱せられるものである。沙翁にも得意時代、失意時代があつたのだが、これは其悲觀時代の一名作で、現實曝露的な所に一味シヨアブリユーラの近代劇と相通する皮肉味がある。附録として、特に難句解が添へてある。印刷、口繪、挿畫、装釘、其他一切前例の通り。此事は一々これからは斷らないでもあらうが、同例だと信じて下さい。

(三版)
寫眞版口繪入
木版密畫多入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

沙翁傑作集 (第十二編)

夕の夜をふり

ついで先年英國の劇作者、舞臺監督者のパーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技巧に成つた作である。今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜劇的氣分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を含まないうちは沙翁を語る権利がない。わが國の黙阿彌などの講釋種のお家騷動物に一寸似た筋立てであるが、其詩としての品位は比べ物にならない。

(四版)
三色版口繪入
木版密畫多入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

發行所 東京早稲田 早稲田大學出版部

文藝博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第十三編)

リチャード三世

沙翁が習作時代の傑作として純粋の正史劇の標本で、わが國でいふ活劇に相當するが、同じやうに正史本位で書いても我國の作者と大詩人の骨子をおそるうしく醜い惡魔的天才である。同作はニイチエの大発見らしく唱へた例の逆道徳の骨子をおそるうしく醜い惡魔的天才である。同作は熟讀なさい。エリザベト劇勃興當時の代表作で、既譯十二編とは全く撰を異にしたに主人公の道破を

(三版)
寫眞版口繪入
木版密畫多入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

沙翁傑作集 (第十四編)

ヘンリー四世

沙翁の史劇中の最傑作である。第一、第二と二部に跨つてゐる長篇で、英國の内亂を舞臺面に市井風俗の喜劇と政治的悲劇と、自然の滑稽と人の願を極め織り交ぜてある。今尙躍り舞臺に棟梁あると賞めてゐる。殊にフオールスタッフの傑作だといふ。其性質の複雑な點に於ては、大落不自然性味がある。古今獨歩である。フオールスタッフは純然たる沙翁の傑作だといふ。其性質の複雑な點に於ては、大落不自然性を凌駕してゐる。評者の多くはフオールスタッフに至つては、男性描寫として、優に他のすべからぬ。

(再版)
三色版口繪入
木版密畫多入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

發行所 東京早稲田 早稲田大學出版部

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙 翁
傑 作 集
(第十六編)

お氣に召すま

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼の喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々とした心持になる。「牧歌的」と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

沙 翁
傑 作 集
(第十七編)

おや馬馴さ

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁立身前後に流行つた、フランス仕立の思ひ切つて變から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷娘を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場は翻案された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いものから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙 翁
傑 作 集
(第十八編)

十二夜

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

既刊「お氣に召すま」の姉妹篇である。學生の同胞の女の方が故あつて男装してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價值は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌、出てゐる、無盡蔵なことが分る。上品な滑稽、高雅な戲謔の上乗である。

沙 翁
傑 作 集
(第十九編)

コソオレナス

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

ニイチエの超人道徳の標本のやうな傲岸不敵の一貴族を中心にして、其周圍に渦巻くアリストクラット對プロレタリアの黨争を経緯とした作である。専ら男性趣味と政治的感興で終始し、一の挿話をも一の戀愛情味をも粧點しないで鋭く性格悲劇としての筋を一貫したのが沙翁集中の異例である。特權階級の専横、武斷政治の弊、平和と戦争の得失、所謂多頭の怪物たる群衆の蠢動、選舉期に於ける俗政治家の戸別訪問等、ところどころ現代に對する批判や諷刺が皮肉にも豫寫されてゐるのが面白い。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部

—(成 完(卷六)部 全)—

イブセン傑作集

四六判布製函入
每册口繪數葉入
全各壹部五拾錢
郵稅各十錢

1 島村抱月譯	人形の家	4 坪内士行譯	小さいアイヨルフ
2 島村抱月譯	海の夫人	5 坪内士行譯	野鴉
3 坪内士行譯 島村民藏譯	ロスマルスホルム	6 坪内士行譯	ヘツダ・カブラー

北歐ノルエーの僻地に生れ社會劇の大作を出して歐米の思想界を震撼したのはイブセンである。婦人の自覺、婦人の解放、婦人の獨立を題材とした「人形の家」が本譯書に依て屢々我が劇壇に演ぜられて女大學主義の守舊家を戰慄させた事は誰も知つてゐる。彼の作は何れも傑作ならぬは無いが茲に譯出した六作は傑作中の傑作である。而して譯者は我劇壇文壇に隠れもない島村抱月、坪内士行の兩氏及び島村民藏氏であるから其譯筆の如何は言ふに及ばぬ。

發行所

東京牛込
早稻田

早稻田大學出版部

終

